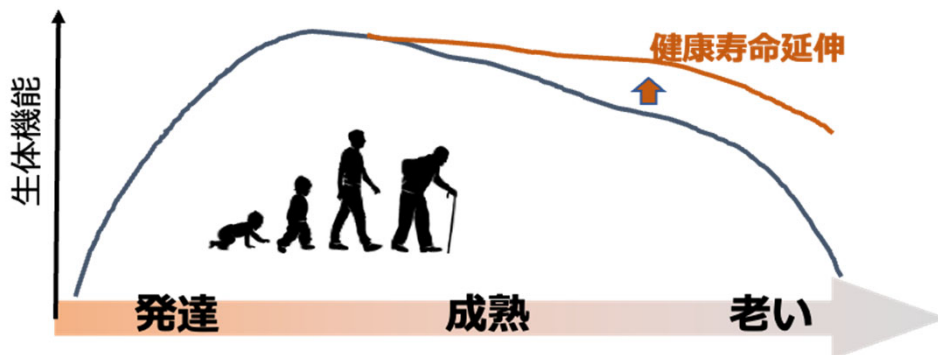


## 文部科学省と国立大学附置研究所・センター 個別定例ランチミーティング

### 第122回 東北大学 加齢医学研究所 (2025.7.11)

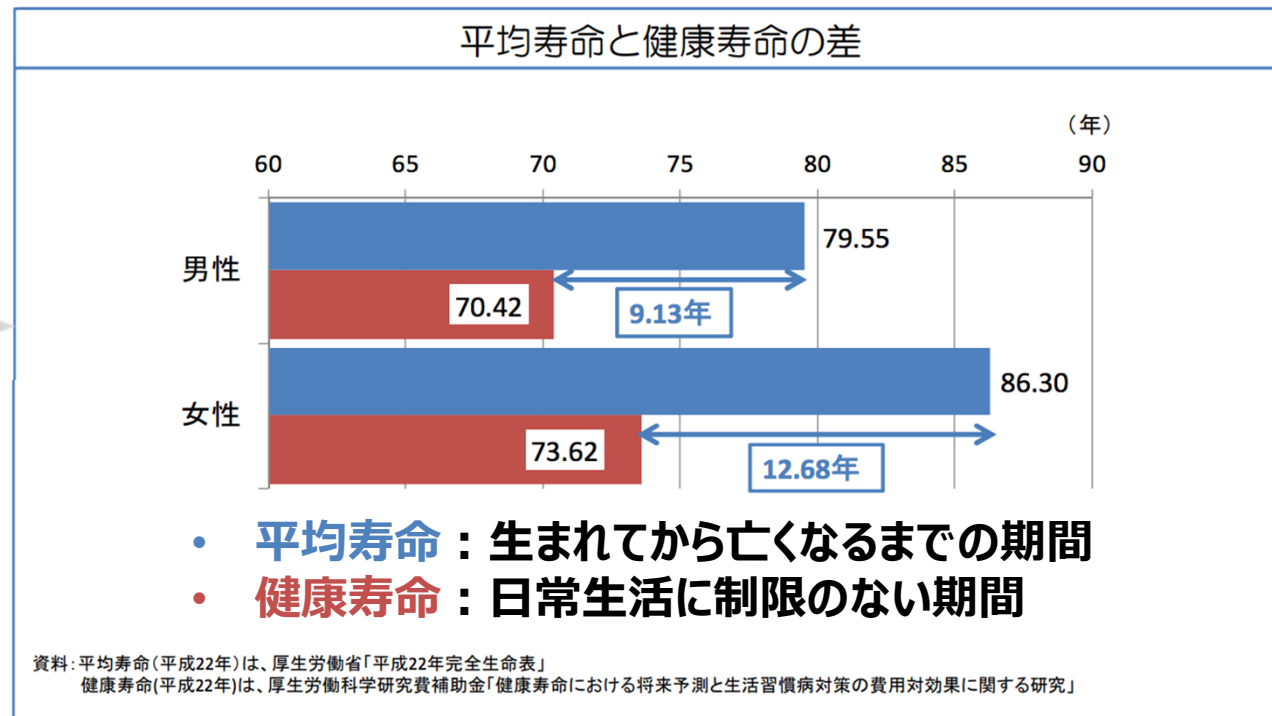
- |                    |                                       |
|--------------------|---------------------------------------|
| 12:05 – 12:10(5分)  | : 研究所・センターの概要 (魏范研副所長)                |
| 12:10 – 12:25(15分) | : 脳、特に視床下部に着目した老化研究<br>の紹介 (佐藤亜希子准教授) |
| 12:25 – 12:45(20分) | : 質疑応答                                |

# 加齢医学研究所のミッション

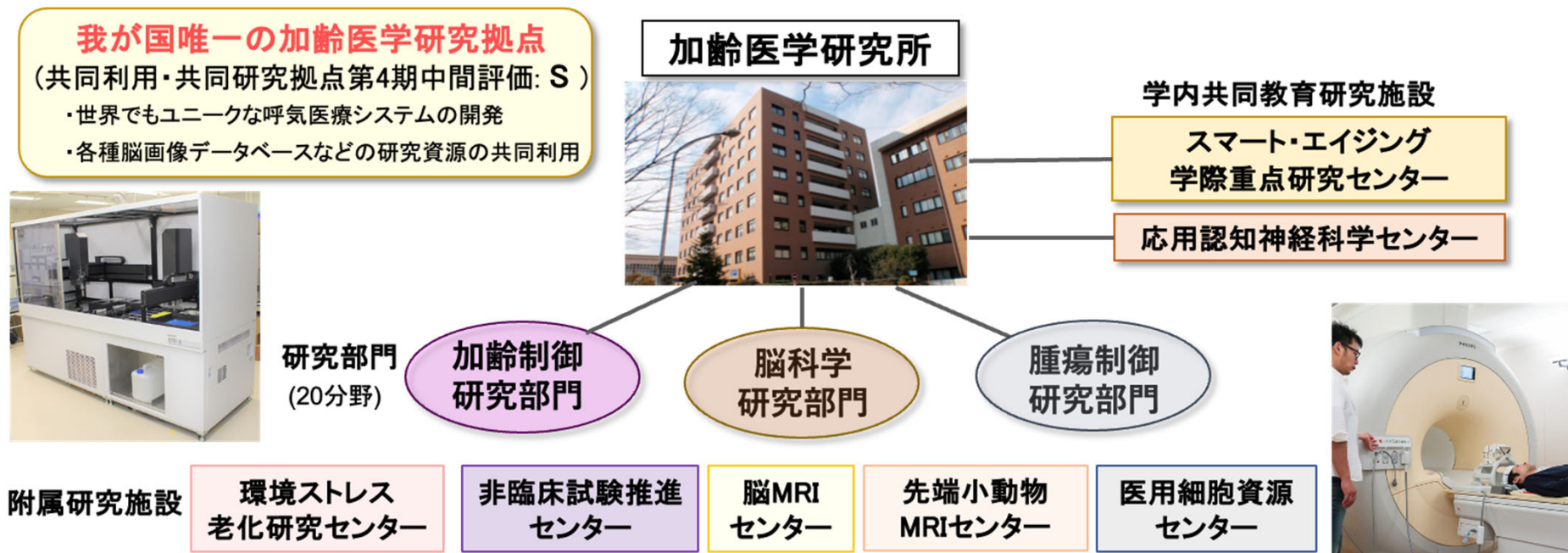


## ミッション

老いに至るプロセス（老化＝エイジング）に焦点を当て、分子・細胞から全身レベルでメカニズムを理解し、脳神経疾患、難治がん、代謝疾患といった老化関連疾患の克服による**健康寿命の延伸をめざす**



# 加齢医学研究所の概要

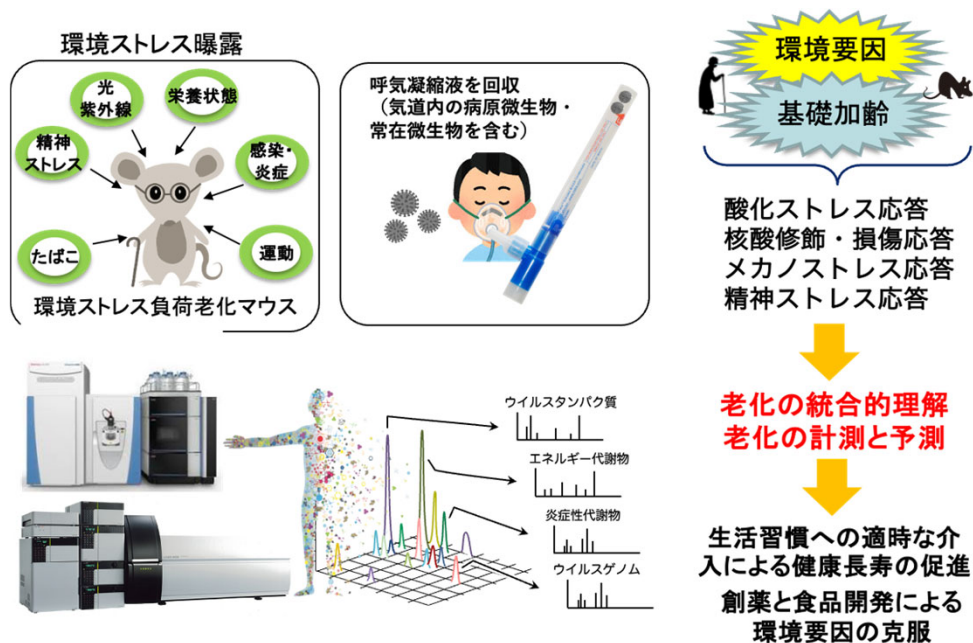


## 各部門のミッション

1. 加齢制御研究部門：加齢による個体機能変化の分子機序の理解と個体機能制御技術の開発
2. 脳科学研究部門：加齢で衰える脳機能や発症頻度が高まるアルツハイマー病や認知症の理解と介入
3. 腫瘍制御部門：加齢によって発症頻度が高まる難治がんの理解と治療法の開発

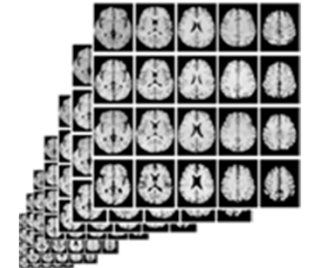
# 加齢医学研究所における先進的な研究取り組み

## 環境ストレス老化研究センター



- 世界初・最大規模呼気バンクの構築 (250名)
- 環境ストレス老化モデルマウスの作製
- 共同利用実績 (R6) : 2406検体を 20 研究部門 (学内 13、学外 7) に配布

## 先端研究小動物MRIセンター



- 国内でも高い解像度を持つ小動物用の磁気共鳴画像装置の共同利用・共同研究の加速を目的とする研究センター
- ヒトの実験では不可能な薬理学的実験、または各種病態モデルの実験を行うことが可能である
- 国際的な多施設連携MRI研究プロジェクトにおいて、当施設で撮像されたラット脳の安静時fMRIの画質は高評価を得ている(2024年Nat Neuroscience誌、Top1%論文)
- R6実績 : 学内123人、学外13人、1891時間利用

# 加齢医学研究所における分野融合研究



## 東北大学応用認知神経科学センター

Cognitive Neuroscience Application Center, Tohoku Univ.

JP

EN

A

A

A

トップ

ニュース

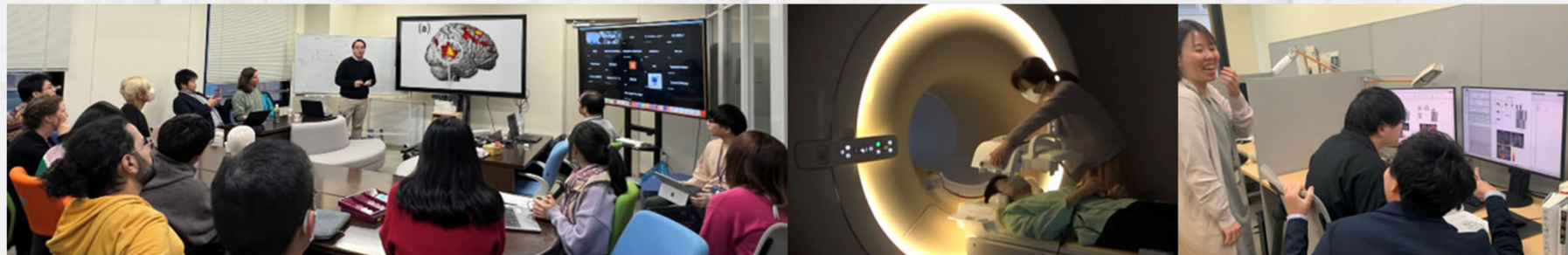
センターについて

メンバー

参加したい

内部限定

脳研究は本当に何かの役に立つのか？



- 認知神経科学は**ヒトの心や行動の謎**を、脳内の情報処理（認知プロセス）の組み合わせとして解明
- 心の問題に起因する社会的課題の解決に応用するために、多分野の研究者や現場の当事者が集まり、多様な**人文・自然科学と認知神経科学**の基礎研究技術を統合した「総合知」の創出と人材育成を目指す

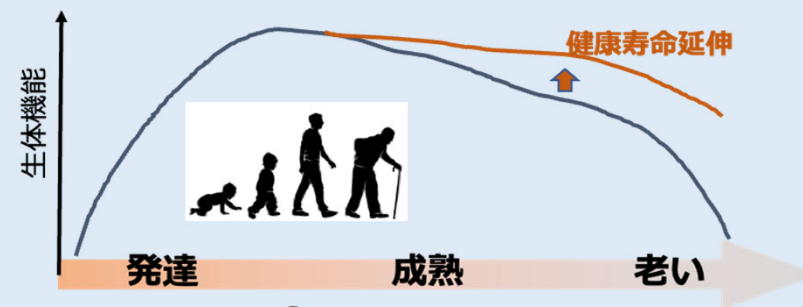
# 加齢医学研究拠点の確立に向けて

## エイジング研究のハブを形成し、加齢医学研究の国際拠点へ

**ミッション：老いに至るプロセスの理解と関連疾患の克服による健康寿命の伸長**



加齢医学研究所



### 共同研究・共同利用 (R6実績)

- ・ 計83研究機関（外国7機関を含む）
- ・ 若手研究者805（574女性）
- ・ 育志賞受賞
- ・ Nature, Science, Cell誌への掲載

### 国内研究所連携



国立長寿医療研究センター

フレイル・サルコペニアなど  
老年疾患がメイン



東京都健康長寿医療センター

### 海外研究所連携



2025年6月1-2日



Center for Alzheimer Research (CAR),  
Karolinska Institute (Sweden)



Center for Healthy Aging (CHEA),  
University of Copenhagen (Denmark)

### 計画中



National Institute on Aging (NIA), NIH (USA)